

## 点滴で放射線照射

すい臓や消化管に発生する希少がん「神経内分泌腫瘍（NET）」について、八戸市の青森労災病院は今  
年1月、放射性同位元素（RI）を組み込んだ点滴薬

を使い、腫瘍細胞のみを標的に放射線を当てて治療する新たな内用療法を導入した。青森県南地方の医療機関では初めてとなる。同病院放射線治療科部長の真里谷靖副院長は「都会の医療機関に行かなくても、地元でRI内用療法を受けられる」と意義を強調した。

（船渡拓）

# 希少がんにも新内用療法

同病院によると、抗がん剤治療に比べ、体への負担が少なく済むといい、すでに患者1人が治療を始めている。県内では他に弘前大医学部付属病院で治療できる。

NETは神経内分泌細胞を由来とする腫瘍。年間発生頻度は人口10万人当たり3〜6人程度で、希少がんに分類される。診断技術の進歩に伴い、近年は患者が増加傾向にあるという。

患者に使うのは、治療に有効とされるルテチウムオキソドトロチド（商品名ルタテラ）と呼ばれる薬。点滴で投与する。

NET患者の腫瘍細胞の表面にはソマトスタチン受容体が多く発現する。その受容体を介して薬を取り込ませ、葉から出る放射線で腫瘍細胞の内側から直接ダメージを

## 青森労災病院、県南初導入

### 抗がん剤より負担少なくて

与える。正常な細胞への0.21年に保険適用となった。影響を最小限に抑えることが可能で、国内では2  
治療期間は約6カ月



間。点滴薬は8週間おきに2泊3日の短期入院で計4回投与する。治療時は医療従事者らに影響が出ないよう、放射線防護機能のある専用の特別措置病室に入院。体から放出される放射線量が、定められた退出基準を下回るまで病室にとどまる必要がある。

同病院は新しい内用療法の導入に向けて、昨年からの研修に出向くなど準備を進めていた。放射線防護措置を講じ、基準を満たせば一般病棟でも入院治療が可能となったため、院内には特別措置病室を1室整備。今年1月に国の認可を受けた。真里谷副院長は「NETで悩まれている患者さんがいれば即時対応できる」と話している。

希少がん「神経内分泌腫瘍」の治療に使用する特別措置病室は3月27日、八戸市